

# オーストリアのエコに対する意識

松本悠良（中学2年）

最近、近所のショッピングモールで洋服を買ったときにエコバックを持っているかどうか聞かれて驚きました。海外のほうがエコに対する意識が高いイメージを持っていた私は、オーストリアのエコ事情について調べてみました。

## 1.食品包装の仕方

日本では、昔から包むことでおもてなしの心を表す文化があったり、湿度が高く物が腐りやすかったりすることから、お菓子などが小分けの袋に入っている物がほとんどです。生鮮食品の多くもプラスチック容器や袋で売られています。しかし、オーストリアのお菓子は一つの袋に大量のお菓子が入っている物が多くありました。一方で、ポテトチップスやシリアルは様々な種類が少しずつ入っている物や小さいサイズの物も売られていました。お菓子などは消費者の好みに合わせて大きい物と小さい物のサイズの両方がありました。生鮮品においては量り売りのシステムが多く見られました。

## 2.エコバックの利用

オーストラリアのスーパーマーケットで買い物をした際は、有料のビニール袋を買う人より1~2ドル程度で買えるエコバックを使うことが当たり前になっていました。日本でもスーパーマーケットはビニール袋が有料化したところもありますが、無料のところもまだあります。服屋、薬局、雑貨店などではオーストラリアでもビニールや紙の袋を使用しています。日本も少しエコバックが使えるお店はあるもののビニールか紙の袋に入れるのが主流なので、その点ではさほど変わりがないようです。

## 3.リサイクル

オーストラリアのスーパーマーケットではビニール袋を回収しています。また、リサイクル工場へプラスチックや瓶のボトルを持って行くと一本10¢でお金と交換してくれます。私のホストファミリーはこのシステムを利用して子供たちがお小遣いを貯めていました。日本でもスーパーマーケットなどに行くとペットボトルやプラスチックトレイの回収箱は設置されていますが、回収箱へわざわざ入れることの魅力が感じられなかったり環境問題についての現状を知らない人が多かったりすることから、リサイクルに協力する人とならない人の差が激しいです。

このようにオーストラリアのエコ事情について三つの点から調べてみた結果、やはりオーストラリアの方がエコに対しての意識や関心を持ちやすいように感じました。

特に子供たちがすすんでエコな活動に参加できる環境があることが良いと思いました。また、環境問題に対する取り組みとして、プラスチックゴミの削減は日本でもオーストラリアでも積極的に行われようとしていると感じました。それだけプラスチックが地球へ与えている影響が大きいのだと思います。日本でも多くの人がエコに対して関心を持ち、もっと気軽に取り組めるシステムが導入されると良いと思います。



量り売りの果物